

INFLUX 唐津沖洋上風力配慮書 一部浮体式の可能性も

INFLUXの事業会社、唐津玄海洋上風力合同会社は12月2日、佐賀県唐津市及び玄海町の沿岸に計画している洋上風力発電事業の計画段階環境配慮書の縦覧を開始した。来年1月13日まで佐賀県、関係市及びINFLUX

LUXホームページで閲覧できる。同日まで意見書を受け付けている。唐津沖洋上風力発電事業は、佐賀県沿岸の神集島、馬渡島の周辺海域約143平方キロに、最大出力約60万KW（単機出力9500～2万KW

級、最大64基)の風力発電所を設置する計画。事業実施想定区域の水

深は約30～60メートルで、着床式洋上風力発電機を主体に想定しているが、水深



事業実施想定区域

50メートルを超える範囲については、今後の技術動向を踏まえ、場合によっては浮体式の基礎構造（パイプ式、コンパクトセミサブ式）になる可能性もある、としている。

変電施設や送電線、陸揚げ地点の位置は現在検討中。また、系統連系については現在九州電力送配電と協議中。工事は着工後約3年程度を想定している。